

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(5月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2025年4月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2025年4月) 3

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：PMI 49%(6月) 6
- ◆中国製造業 PMI 49.7%(6月) 7
- ◆イタリアの工作機械産業 8
- ◆海外業界ニュース：中国 10
- ◆知られざる存在：
FinDreamsが拓くBYDの「部品帝国」 12
- ◆米国製造業にとっての大きな勝利：
ワン・ビッグ・ビューティフル・ビルが成立 14
- ◆BIS、中国企業に対するVEUを終了する取組み 15

3. 工作機械関連企業動向

- ◆【韓国発】工作機械の頭脳「CNC」の
国産化に成功 17
- ◆Hurco社、2025会計年度第2四半期結果 17
- ◆CHIRONグループ サステナビリティ
レポート 2024 20
- ◆SecoとHELLERの新たなパートナーシップは、
機械加工技術の変革を目指す 21

4. 展示会情報

- ◆SIMTOS2026ジャパンパビリオン出展のご案内 23

5. その他

- ◆ユーザー産業動向 23

6. 日工会外需状況(5月) 32

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(5月)

AMT(米国製造技術工業協会)が発表した米国製造技術受注レポートによると、金属加工機械の新規受注額は2025年5月に3億9,270万ドルに達した。(成型形含む)2025年4月比で11.8%減少、2024年5月比で2.7%増加となった。2025年から5月までの機械受注額は20億9,000万ドルで、2024年の最初の5か月間で15%増加した。米国製造技術の受注額は3月と4月に減少したが、市場は回復の兆しを見せ続け、2025年の各月は2024年の同月を上回った。2025年5月の受注額は、5月の平均より16%増加した。受注台数で見ると、データははるかに横ばいの成長を示している。2025年5月までの受注台数は、2024年の最初の5か月間と比較して4.7%増加し、依然として2021年以来の最高のプラス成長率である。

2025年4月と5月は、関税政策の不規則な実施による経済の不確実性にもかかわらず、製造業の技術受注は比較的堅調に推移した。

最近可決された減税・歳出政策パッケージは、すべての企業に一定の確実性をもたらすとともに、製造業向けの大規模なインセンティブを盛り込んでおり、2025年後半の追加的な機械投資につながる可能性がある。

(USMTOレポート 2025年7月14日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成型型受注	
	台 数	金 額	台 数	金 額
2024年 5月	1,549	377,030	21	5,365
6月	1,439	389,916	12	8,483
7月	1,455	315,203	15	7,149
8月	1,585	358,905	14	6,401
9月	1,896	436,098	17	8,225
10月	1,619	377,886	15	6,099
11月	1,758	435,370	20	3,871
12月	1,972	496,716	22	12,589
2025年 1月	1,525	350,179	18	4,234
2月	1,656	377,949	17	5,763
3月	1,887	504,287	17	12,481
4月	1,757	439,137	16	5,895
5月	1,507	381,459	21	11,218
平均	1,641	374,690	19	8,408

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2025年5月(P)	2025年4月	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2025年累計(P)	2024年累計 (R)	前年同期比 (%)
全米	392.68	445.03	-11.8	382.40	2.7	2,092.60	1,819.16	15.0
北東部	49.76	61.97	-19.7	76.77	-35.2	325.48	303.96	7.1
南東部	50.58	50.13	0.9	39.58	27.8	269.64	254.51	5.9
北中東部	113.41	99.82	13.6	92.15	23.1	494.14	427.61	15.6
北中西部	62.81	83.60	-24.9	72.91	-13.9	348.47	352.37	-1.1
南中部	35.08	65.87	-46.7	30.22	16.1	224.64	164.04	36.9
西部	81.03	83.63	83.6	70.78	14.5	430.24	316.68	35.9

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2025年4月)

台湾工作機械輸出入統計(2025年1-4月)

(単位：千USDドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2024.1-4	2025.1-4	前年比(%)	2024.1-4	2025.1-4	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	50,858	50,909	0.1	50,930	83,402	63.8
マシニングセンタ	209,108	185,997	-11.1	15,598	63,992	310.3
旋盤	169,623	132,897	-21.7	22,970	20,510	-10.7
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	48,097	43,661	-9.2	3,366	2,796	-16.9
研削盤	68,171	63,823	-6.4	13,221	11,677	-11.7
歯切り盤・歯車機械	35,619	28,421	-20.2	10,839	11,126	2.6
切 削 型 合 計	581,476	505,708	-13.0	116,924	193,503	65.5

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2025年1-4月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2024.1-4	2025.1-4	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2024.1-4	2025.1-4	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	201,473	173,867	27.7	-13.7	1	ベ ル ギ ー	389	92,416	33.6	23,657.3
2	米 国	104,398	102,390	16.3	-1.9	2	日 本	62,976	86,736	31.5	37.7
3	ト ル コ	67,393	46,724	7.4	-30.7	3	中 国	29,890	33,118	12.0	10.8
4	イ ン ド	43,552	45,682	7.3	4.9	4	ド イ ツ	17,150	21,778	7.9	27.0
5	タ イ	13,741	34,890	5.6	153.9	5	韓 国	1,769	9,130	3.3	416.1
6	ベ ト ナ ム	30,056	26,829	4.3	-10.7	6	ス イ ス	6,061	7,475	2.7	23.3
7	日 本	13,811	16,283	2.6	17.9	7	タ イ	4,054	4,974	1.8	22.7
8	ブラジル	9,922	12,979	2.1	30.8	8	米 国	6,526	4,860	1.8	-25.5
9	オ ラ ン ダ	20,032	12,977	2.1	-35.2	9	イスラエル	1,707	3,651	1.3	113.9
10	マレーシア	11,011	11,842	1.9	7.5	10	イ タ リ ア	2,332	2,897	1.1	24.2
11	英 国	11,522	11,034	1.8	-4.2	11	台 湾	6,672	1,838	0.7	-72.5
12	イ タ リ ア	12,886	9,528	1.5	-26.1	12	リトアニア	-	1,729	0.6	0.0
13	インドネシア	9,132	9,523	1.5	4.3	13	オーストリア	919	1,304	0.5	41.9
14	メ キ シ コ	6,035	9,042	1.4	49.8	14	シンガポール	117	685	0.2	485.5
15	ド イ ツ	23,020	8,530	1.4	-62.9	15	デンマーク	39	507	0.2	1200.0
16	韓 国	15,562	8,402	1.3	-46.0	16	オーストラリア	-	501	0.2	0.0
17	オーストラリア	8,731	7,454	1.2	-14.6	17	ス ペ イ ン	169	462	0.2	173.4
18	カ ナ ダ	6,686	6,826	1.1	2.1	18	英 国	882	440	0.2	-50.1
19	ベ ル ギ ー	3,669	6,274	1.0	71.0	19	チ ェ コ	3	377	0.1	12466.7
20	ポーランド	3,626	6,120	1.0	68.8	20	ト ル コ	16	142	0.1	787.5
21	ス ペ イ ン	5,068	4,945	0.8	-2.4		そ の 他	6119	228	0.1	-96.3
22	フ ラ ン ス	9,330	4,758	0.8	-49.0						
23	ウクライナ	1,827	3,543	0.6	93.9						
24	シンガポール	2,943	3,491	0.6	18.6						
25	アラブ首長国	3,441	2,505	0.4	-27.2						
26	サウジアラビア	1,352	2,258	0.4	67.0						
27	南アフリカ	2,790	2,204	0.4	-21.0						
28	香 港	3,088	2,203	0.4	-28.7						
29	フィリピン	2,703	2,123	0.3	-21.5						
30	チ ェ コ	870	2,068	0.3	137.7						
	そ の 他	52,583	30,075	4.8	-42.8						
	合 計	702,253	627,369	100.0	-10.7		合 計	147,790	275,248	100.0	86.2

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2025年4月)

韓国工作機械受注(2025年4月)

○業種別受注(2025.4)

(単位：百万ウォン)

需要業種	2025.3	2025.4	前月比(%)	2024.1-4	2025.1-4	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	2,310	4,290	85.7	16,673	12,870	-22.8
金属製品	221	38	-82.8	5,942	1,272	-78.6
一般機械	38,344	37,966	-1.0	116,812	118,669	1.6
電気機械	10,650	11,327	6.4	48,231	38,677	-19.8
自動車	41,612	44,087	5.9	120,540	156,283	29.7
造船・輸送用機械	8,922	10,018	12.3	30,309	26,845	-11.4
精密機械	10,391	5,438	-47.7	19,757	25,577	29.5
その他製造業	5,998	7,365	22.8	21,781	19,429	-10.8
官公需・学校	69	157	127.5	1,259	1,340	6.4
商社・代理店	7,835	6,201	-20.9	33,694	24,057	-28.6
その他	0	0	-	9,066	0	-
内 需 合 計	126,352	126,887	0.4	424,064	425,019	0.2
外 需	188,883	161,381	-14.6	634,665	647,483	2.0
総 合 計	315,235	288,268	-8.6	1,058,729	1,072,502	1.3

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2025.4)

(単位：百万ウォン)

機 種	2025.3	2025.4	前月比(%)	2024.1-4	2025.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	305,287	277,877	-9.0	1,035,361	1,042,838	0.7
NC旋盤	156,716	139,781	-10.8	514,205	500,571	-2.7
マシニングセンタ	111,478	104,383	-6.4	370,957	390,925	5.4
NCフライス盤	1,137	753	-33.8	2,000	2,198	9.9
NC専用機	22,475	19,166	-14.7	72,459	86,422	19.3
NC中ぐり盤	7,162	3,367	-53.0	28,385	28,961	2.0
NCその他の工作機械	4,630	7,967	72.1	30,067	24,479	-18.6
非 N C 小 合 計	7,538	7,879	4.5	13,467	21,539	59.9
旋盤	2,476	3,978	60.7	4,810	8,608	79.0
フライス盤	3,106	2,672	-14.0	3,659	7,124	94.7
ボール盤	139	0	-	229	139	-39.3
研削盤	1,817	1,229	-32.4	4,674	5,668	21.3
専用機	0	0	-	0	0	-
その他の工作機械	0	0	-	20	0	-
金 属 切 削 型	312,825	285,756	-8.7	1,048,828	1,064,377	1.5
金 属 成 形 型	2,410	2,512	4.2	9,901	8,125	-17.9
総 合 計	315,235	288,268	-8.6	1,058,729	1,072,502	1.3

出所：韓国工作機械産業協会

○生産(2025年4月)

韓国工作機械生産&出荷統計(2025年4月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.3	2025.4	前月比(%)	2024.1-4	2025.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	206,401	155,169	-24.8	741,677	643,080	-13.3
NC旋盤	92,105	82,705	-10.2	361,820	312,766	-13.6
マシニングセンタ	71,984	62,666	-12.9	233,580	222,342	-4.8
NCフライス盤	0	210	-	623	498	-20.1
NC専用機	29,888	0	-	87,361	68,870	-21.2
NC中ぐり盤	3,949	3,100	-21.5	18,150	11,374	-37.3
NCその他	4,648	3,482	-25.1	27,966	16,579	-40.7
非 N C 小 合 計	2,218	2,394	7.9	15,333	9,094	-40.7
旋盤	176	447	154.0	6,277	1,058	-83.1
フライス盤	1,187	766	-35.5	3,392	3,555	4.8
ボール盤	259	288	11.2	1,522	1,195	-21.5
研削盤	596	893	49.8	3,126	2,896	-7.4
専用機	0	0	-	941	390	-58.6
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	208,619	157,563	-24.5	757,010	652,174	-13.8
金 属 成 形 型 合 計	15,084	15,212	0.8	64,770	64,441	-0.5
総 合 計	223,703	172,775	-22.8	821,780	716,615	-12.8

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2025.4)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.3	2025.4	前月比(%)	2024.1-4	2025.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	300,441	205,301	-31.7	906,525	831,849	-8.2
NC旋盤	153,058	102,735	-32.9	458,576	416,870	-9.1
マシニングセンタ	101,908	73,723	-27.7	295,109	28,529	-4.9
NCフライス盤	0	210	-	623	498	-20.1
NC専用機	29,978	19,074	-36.4	87,362	88,034	0.8
NC中ぐり盤	7,140	3,007	-57.9	25,873	18,577	-28.2
NCその他	4,530	3,546	-21.7	26,806	16,690	-37.7
非 N C 小 合 計	4,014	4,188	4.3	15,315	15,234	-0.5
旋盤	1,803	2,229	23.6	6,119	6,764	10.5
フライス盤	1,250	798	-36.2	3,286	3,723	13.3
ボール盤	317	268	-15.5	1,584	1,227	-22.5
研削盤	644	893	38.7	3,286	3,130	-4.7
専用機	0	0	-	941	390	-58.6
その他	0	0	-	24	0	-
金 属 切 削 型 合 計	304,455	209,489	-31.2	921,840	847,083	-8.1
金 属 成 形 型 合 計	1,582	1,501	-5.1	5,234	5,669	8.3
総 合 計	306,037	210,990	-31.1	927,074	852,752	-8.0

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2025.4) 韓国工作機械輸出統計(2025年4月) (単位：千USドル)

機種別	2025.3	2025.4	前月比(%)	2024.1-4	2025.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	147,203	159,566	8.4	603,199	548,266	-9.1
NC旋盤	74,364	66,753	-10.2	290,581	255,928	-11.9
マシニングセンタ	42,109	37,271	-11.5	147,706	160,907	8.9
NCフライス盤	983	1,829	86.0	5,803	5,556	-4.3
NC専用機	0	11,789	-	19,033	11,791	-38.0
NC中ぐり盤	3,354	1,973	-41.2	22,219	11,145	-49.8
レーザ加工機	19,377	34,116	76.1	89,862	80,687	-10.2
NCその他	3,971	2,890	-27.2	11,314	11,248	-0.6
非 N C 小 合 計	10,468	10,006	-4.4	53,232	36,611	-31.2
旋盤	1,073	714	-33.4	5,553	2,231	-59.8
フライス盤	916	883	-3.6	3,213	3,511	9.3
ボール盤	309	708	129.1	1,448	1,875	29.5
研削盤	1,121	1,194	6.6	4,108	1,875	-19.6
専用機	1	3	430.8	94	3,303	84.8
その他	6,034	4,014	-33.5	16,586	174	-0.7
金 属 切 削 型 合 計	157,671	169,572	7.5	656,431	16,470	-10.9
金 属 成 形 型 合 計	43,486	45,894	5.5	176,802	584,877	-2.8
総 合 計	201,157	215,466	7.1	833,233	756,720	-9.2

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2025.1-4) (単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	152,984	44,198	37,258	172,519	152,715	58,996	43,765
NC旋盤	53,238	18,112	19,136	80,407	101,678	38,178	34,110
マシニングセンタ	38,852	11,844	12,299	59,575	40,705	16,710	9,484
NCフライス盤	3,167	1,307	1,227	286	718	68	0
NC専用機	143	0	0	3	0	0	0
NC中ぐり盤	5,101	2,197	1,595	4,379	1,194	831	0
レーザ加工機	40,545	5,988	2,213	21,061	6,734	2,044	29
NCその他	2,594	247	328	6,353	1,305	1,093	0
非NC小合計	14,387	3,129	2,306	7,331	6,822	178	502
旋盤	796	0	260	173	854	31	38
フライス盤	1,682	330	525	1,106	330	10	146
ボール盤	913	14	353	17	118	85	0
研削盤	1,818	534	638	603	198	0	195
専用機	172	171	1	3	0	0	0
その他	5,613	1,638	435	5,063	817	18	13
金 属 切 削 型 合 計	167,371	47,327	39,564	179,850	159,537	59,174	44,267
金 属 成 形 型 合 計	68,322	18,645	24,372	56,057	18,477	2,035	1,450
総 合 計	235,693	65,972	63,935	235,907	178,014	61,209	45,717

出所：韓国通関局

○機種別輸入(2025.4) 韓国工作機械輸入統計(2025年4月) (単位：千USドル)

機 種 別	2025.3	2025.4	前月比(%)	2024.1-4	2025.1-4	前年同期比(%)
N C 小 合 計	56,594	62,800	11.0	206,129	202,409	-1.8
NC旋盤	7,080	3,124	-55.9	33,606	20,728	-38.3
マシニングセンタ	12,764	11,585	-9.2	47,610	39,847	-16.3
NCフライス盤	184	614	234.4	2,484	923	-62.9
NC専用機	1	384	38,300.0	0	1,858	-
NC中ぐり盤	4,454	1,003	-77.5	2,341	6,275	168.1
レーザ加工機	17,061	25,433	49.1	72,373	76,848	6.2
NCその他	1,140	586	-48.6	4,964	2,525	-49.1
非 N C 小 合 計	8,456	8,988	6.3	29,694	29,218	-1.6
旋盤	256	217	-15.0	3,120	1,503	-51.8
フライス盤	161	698	334.5	2,870	1,312	-54.3
ボール盤	314	319	1.6	2,448	1,154	-52.9
研削盤	1,569	3,696	135.6	4,577	7,705	68.3
専用機	28	4	-84.4	888	35	-96.1
その他	3,572	1,043	-70.8	6,790	8,325	22.6
金 属 切 削 型 合 計	65,050	71,788	10.4	235,823	231,627	-1.8
金 属 成 形 型 合 計	9,860	10,072	2.1	69,207	52,111	-24.7
総 合 計	74,910	81,859	9.3	305,030	283,738	-7.0

出所：韓国通関局

○輸入国別(2025.1-4)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	151,131	82,342	3,983	9,470	40,591	18,223	11,776
NC旋盤	19,674	15,140	0	0	1,055	0	0
マシニングセンタ	34,510	25,899	2,322	1,423	3,914	3,792	0
NCフライス盤	689	55	0	0	233	2	20
NC専用機	384	383	0	0	1,474	0	1,474
NC中ぐり盤	1,353	844	0	0	4,922	468	4,454
レーザ加工機	64,197	23,591	86	1,441	10,689	4,279	1,275
NCその他	1,206	486	11	1,106	192	94	23
非 N C 小 合 計	19,863	10,223	2,697	1,086	8,233	5,928	106
旋盤	1,489	772	14	0	13	13	0
フライス盤	954	664	20	0	358	110	82
ボール盤	1,022	222	371	3	96	41	0
研削盤	6,958	4,720	1,467	36	711	214	4
専用機	4	0	0	28	2	0	2
その他	3,054	1,066	92	643	4,627	3,763	0
金 属 切 削 型	170,994	92,565	6,680	10,556	48,824	24,151	11,882
金 属 成 形 型	32,116	12,670	773	1,631	18,361	8,142	2,094
総 合 計	203,109	105,235	7,453	12,188	67,185	32,293	13,975

出所：韓国通関局

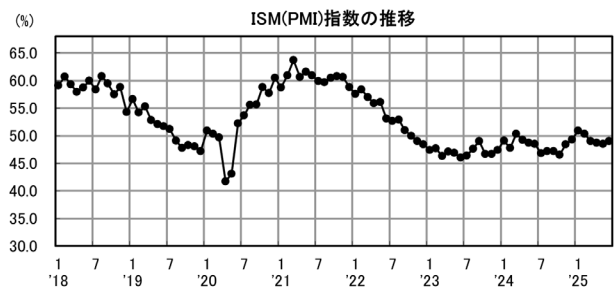
2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 49%（6月）

米サプライ・マネジメント協会(ISM)の購買管理指数(PMI：製造業350社以上のアンケート調査に基づく月次景況指数)の2025年6月の調査結果について、ISMは次のようにコメントしている。製造業の経済活動は、2ヶ月連続の縮小の後、2ヶ月連続で拡大し、その後26ヶ月連続で縮小したが、6月も4ヶ月連続で縮小した。

「製造業PMI®は6月に49%となり、5月の48.5%から0.5ポイント上昇した。経済全体は、2020年4月に1ヶ月間の縮小を記録した後、62ヶ月連続で拡大を続けた。(製造業PMI®が一定期間にわたって42.3%を超えることは、一般的に経済全体の拡大を示している。)新規受注指数は、3ヶ月間の拡大期の後、5ヶ月連続で縮小した。46.4%は、5月の47.6%から1.2ポイント低下した。生産指数は6月が50.3%で、5月の45.4から4.9ポイント上昇し、再び拡大領域に戻りました。物価指数は引き続き拡大(または「上昇」)領域にあり、5月の69.4%から0.3ポイント上昇し、69.7%となった。受注残指数は44.3%となり、5月の47.1%から2.8ポイント低下した。」

「6月の米国製造業活動は縮小ペースを鈍化させ、在庫と生産の改善が製造業PMI®の0.5%上昇の最大の要因となった。



需要指標は依然としてまちまちで、新規受注と受注残指数は縮小ペースが加速する一方、顧客在庫と新規輸出受注指数は縮小ペースが鈍化した。顧客在庫指数が「低すぎる」水準にあることは、通常、将来の生産にとってプラス要因とみなされる。

生産に関しては、生産指数は前月比で上昇し、現在は拡大領域にあるが、雇用指数は、採用ではなく人員管理が依然として主流であるため、さらに縮小に転じました。生産に関するまちまちの指標は、生産が増加しているにもかかわらず、企業が依然として採用に慎重であることを示唆している。」

6月に成長を報告した9つの製造業は、順に、衣料品、皮革および関連製品、石油および石炭製品、非金属鉱物製品、その他製造業、家具および関連製品、コンピュータおよび電子製品、機械、食品、飲料およびタバコ製品、電気機器、電気器具および部品。

ISMが発表した6月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2025年6月指数(%)	2025年5月指数(%)	備 考
ISM 指数(PMI)	49.0	48.5	前月比0.5ポイント減。PMIが48.7%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新 規 受 注	46.4	47.6	前月比1.2ポイント減。拡大の基準は52.1である。7業種が増加を報告した。
生 産	50.3	45.4	前月比4.9ポイント増。拡大の基準は、52.1である。8業種が増加を報告。
雇 用	45.0	46.8	前月比1.8ポイント減。4業種が増加を報告した。
入 荷 遅 延	54.2	56.1	前月比1.9ポイント減。長期化の基準は、50以上。18業種中9業種が長期化を報告した。
在 庫	49.2	46.7	前月比2.5ポイント増。拡大の基準44.4ポイントを上回った。9業種が在庫増を報告した。
顧 客 在 庫	46.7	44.5	前月比2.2ポイント増。4業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	69.7	69.4	前月比0.3ポイント増。15業種が増加を報告した。
受 注 残	44.3	47.1	前月比2.8ポイント減。3業種が増加を報告した。
輸 出 受 注	46.3	40.1	前月比6.2ポイント増。4業種が増加を報告した。
原 材 料 輸 入	47.4	39.9	前月比7.5ポイント増。7業種が増加を報告。

(ISM Manufacturing Report on Business 2025年5月1日付)

◆中国製造業 PMI 49.7% (6 月)

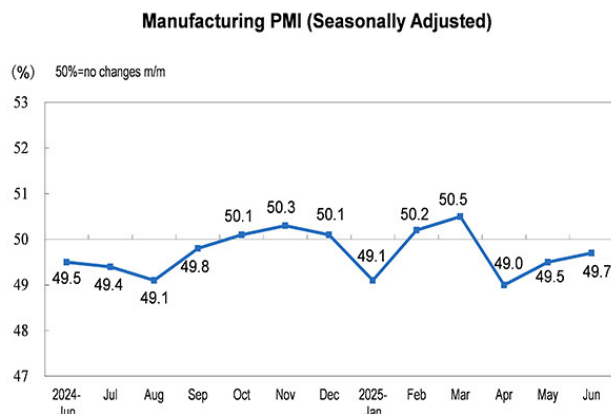
6月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は49.7%となり、前月比0.2ポイント上昇し、製造業の景況感は引き続き改善した。

企業規模別に見ると、大企業PMIは51.2%で、前月比0.5ポイント上昇し、基準値を上回った。中規模企業PMIは48.6%で、前月比1.1ポイント上昇し、基準値を下回った。小規模企業PMIは47.3%で、前月比2.0ポイント低下し、基準値を下回った。

製造業PMIを構成する5つのサブ指数のうち、生産指数、新規受注指数、サプライヤー納期指数は基準値を上回ったが、原材料在庫指数と雇用指数は基準値を下回った。

生産指数は51.0%で、前月比0.3ポイント上昇し、製造業企業の生産活動が加速していることが示された。

新規受注指数は50.2%で、前月比0.4ポイント上昇し、製造業市場の需要が改善していることが示された。



原材料在庫指数は48.0%で、前月比0.6ポイント上昇し、閾値を下回り、製造業における主要原材料の在庫の減少幅が引き続き縮小していることが示された。

雇用指数は47.9%で、前月比0.2ポイント低下し、製造業企業の雇用環境がわずかに悪化していることが示された。

サプライヤー納期指数は50.2%で、前月比0.2ポイント上昇し、製造業における原材料サプライヤーの納期が前月よりも短縮していることが示された。

(Bureau of Statistics of China 2025年7月1日付)

◆イタリアの工作機械産業

- イタリアの工作機械産業、2024年は極めて困難な年、2025年には改善が見込まれるものの、予測は必ずしも明るいとは言えない。

2024 年の実績

UCIMU (イタリア工作機械・ロボット・自動化工業会) が処理した実績データによると、2024年のイタリア工作機械、ロボット、自動化システムの生産額は63億2,700万ユーロで、2023年比16.9%の減少となった。

これは、イタリアメーカーの国内市場への出荷額が大幅に減少し、前年比39.5%減の20億5,400万ユーロとなったことによるものである。国内消費は前年比36.3%減の37億700万ユーロにとどまった。輸入も低迷し、16億5,300万ユーロ (31.8%減) となった。

イタリア企業の海外市場における業績は、輸出が1.2%増の42億7,300万ユーロと緩やかに増加し、同部門の過去最高を記録したことからも分かるように、一転して目覚ましい成果を上げました。

輸出生産比率は、2023年の55.5%から2024年には67.5%に増加した。

2024年におけるイタリア製品の主な輸出市場は、米国 (6億2,900万ユーロ、+10.9%)、ドイツ (3億6,500万ユーロ、+1.6%)、中国 (2億4,000万ユーロ、-16.3%)、フランス (2億400万ユーロ、-17.6%)、トルコ (1億9,000万ユーロ、-10.3%)、インド (1億8,500万ユーロ、+58.3%)、メキシコ (1億7,600万ユーロ、-9.9%)、ポーランド (1億6,900万ユーロ、-21.5%)、スペイン (1億5,700万ユーロ、+21.1%)、スウェーデン (9,200万ユーロ、+71.4%) であった。

生産能力の稼働率は低下し、年間平均は2023年の86.2%から2024年には77.3%に減少した。受注残高についても同様の傾向が見られ、保証生産期間は前年の7.3か月から6.5か月に短縮された。

このセクターの売上高は93億4,000万ユーロを超えなかった。

2025 年の予測

イタリアの工作機械、ロボット、オートメーション産業は、UCIMUの予測によると、2025年には若干の回復が見込まれる。すべての指標がプラス圏に戻ると予想されますが、増加幅は極めて小さいものとなる見込みである。

生産は64億9,000万ユーロ (2.6%増) に達する見込みです。輸出は再び増加し (1%増)、過去最高の43億1,500万ユーロを達成すると予想される。

国内市場への納入は再び増加(+5.9%)し、21億7,500万ユーロとなる見込みである。これは、国内消費の緩やかな回復に支えられ、39億1,000万ユーロ(+5.5%)に達すると予想される。輸入もプラスの兆候を示し、17億3,500万ユーロ(+4.9%)に達すると予想される。

産業政策に関するコメントと提案：移行 5.0、ドイツ、そして構造的措置

UCIMU会長のリカルド・ローザ氏は、最初の総会で次のように述べた。

「国内外の需要が極めて低迷している現在のような重要な局面において、進歩的で必要な変化を支えるには、インセンティブツールによる施策が不可欠だ。ヨーロッパにおける私たちの最初の拠点であるドイツが、まもなく自国の産業を支援し、再活性化させる計画を策定する予定であるからである。」

「もしドイツ製の機関車が再始動すれば、これまで一度も止まったことのないこの列車の先頭車両である私たちは、準備を整え、列車と連結されたままでいなければならない。そうすることで、関税の問題はさておき、非常に長いルートを走り、世界中に製品を届けるメイド・イン・ジャーマニーの生産チェーンで事業を継続できる。」

「私たちは、期限後も適用範囲を延長できるよう、今年中にトランジション5.0について政府に即時の行動を求める。しかし、それが不可能な場合は、少なくともまだ利用可能な資金を新たな対策に転換するよう求める。この点に関し、2026年以降の産業の発展に伴う国家政策について、今こそ検討する必要があると考えている。」

経済・地政学的背景：自動車産業／関税と不安定性

欧州企業が自問自答しなければならない2つの大きな問いがある。「EU産自動車生産とそのすべてのサプライヤー、そして関連事業はどうなるのか、あるいはどうなることを望むのか？そして、世界中のあらゆる地域にドミノ効果を引き起こす可能性のある、非常に恐ろしい関税政策に対して、私たちはどう対処するのか？」

リカルド・ローザ氏は、「パワートレインの電動化に関して、改めて技術中立性の原則を徹底する必要があると指摘した。この移行プロセスの持続可能性は、環境への影響だけでなく、経済的・社会的影響も考慮する必要があるからだ。欧州の起業家および市民として、私たちは若者の自動車への関心が以前の世代に比べて著しく低いことをよく理解している。しかし、私たちは市場全体をアジアに委ねることを決定し、ユーロ圏経済の基盤を砂漠化させ、国民の貧困化を招くリスクを冒している。これは決して許されない。」と述べた。

「関税について言えば、2024年には米国が我が国の第一の輸出市場となり、6億台以上の機械が販売された。イタリアの製品は非常に高く評価されており、米国の工場は国内生産だけでは需要を満たせないため、機械を輸入する必要に迫られている。そのため、参入関税障壁は特に大きな痛手にはならないと考えている。より深刻な問題は、イタリアが関与するサプライチェーン上の製品に対する関税の間接的な影響である。」

一方、極めて深刻なのは不確実性であり、トランプ大統領が長らく脅しをかけてきた貿易戦争に関連しているか、あるいはさらに悪いことに中東情勢の不安定化に関連しているかに関わらず、生産技術への投資を真に阻害する要因となっている。

(UCIMU Press Release 2025年7月1日)

◆海外業界ニュース：中国

中国工作機械工業会(CMTBA)は、工作機械製品の輸出入総額に関する最新統計を発表した。2025年1月から4月までの輸出入総額は106億ドルに達し、前年比5.4%増加した。輸入額は33億5,000万ドルで、前年比0.2%の微減となった。具体的には、金属切削工作機械の輸入額は16億2,000万ドルで前年比1.7%増加したが、金属成形工作機械の輸入額は1億9,000万ドルで、18.9%の大幅な減少となった。

以下の分野が新たなホットスポットとして注目されている。

1. 低高度経済：この分野は、有人航空機および無人航空機を含む様々な低高度飛行技術によって推進される包括的な経済モデルである。この市場の主要製品には、ドローン、電動垂直離着陸機（eVTOL）、ヘリコプター、従来の固定翼航空機などがあります。この分野には、民生用と産業用途という2つの主要なシナリオがある。中国の民生用ドローン産業は2025年までに280億ドルを超えると推定されており、産業グレードのドローンが主流となり、eVTOLが急成長を遂げ、商業化に向けて急速に前進している。今後数年間で、低高度経済は中国で1,000億ドル規模の産業へと発展すると予測されている。

2. ロボット製造産業：中国は、ロボット産業を製造業の変革と高度化に不可欠な要素と見なしている。政府は、この産業の急速な発展を促進するための支援政策を実施している。中国のロボット産業は、第15次「5カ年計画」期間（2026年から2030年）において約550億ドル規模に成長すると予測されている。2025年第1四半期の産業用ロボットとサービス用ロボットの生産台数はそれぞれ14万9000台と260万台に達し、前年比26%増、20%増となった。今後5年間で産業用ロボットの普及率は大幅に上昇すると予想され、サービス用ロボットも進化を続け、ヒューマノイドロボットが市場に投入される見込み。新たな技術が産業の進化を加速させる一方で、製造業とサービス業の変革は大きなチャンスを生み出している。その結果、中国のロボット産業は急速な発展期を迎えており、製造業にとって大きな可能性を秘めている。

最近発表されたプロジェクトと投資ニュースをいくつかご紹介する。

- 牧川伝動装置は、精密減速機製造用の新工場建設と生産設備購入のプロジェクト第1期に1億1,000万ドルを投資し、年間60万台の生産能力を予定している。
- 上海飛機製造有限公司は、C919航空機50機の年間生産能力を満たすコア部品、組立、統合能力を確保するため、14億ドルを投資する予定。
- 広東海創国際は、粵港澳大湾区に位置する佛山市に、ロボット製造用の工場11棟を建設し、関連生産設備を購入するため、4億1,500万ドルを投資する。
- 国軒高科集団の子会社である唐山国軒電池は、河北省で大型トラック向けバッテリーセルの生産ラインを建設するため、4億8,000万ドルを投資し、年間10GWhの生産能力を実現する。
- Huangye Zhimu Mechanical Manufacturingは、浙江省の金型スマート製造センタープロジェクト用の新施設を建設するために6,400万ドルを投資する。

(AMT Online 2025年7月1日)

◆海外業界動向：「Make in India」が大きな成果を上げる

インドの製造業購買担当者指数は、5月の57.6から6月に58.4に上昇した。これは14ヶ月ぶりの高水準であり、長期平均の54.1を大きく上回っている。これは、主に輸出受注の急増に牽引され、景況が大幅に改善したことを示している。

世界銀行の4月の予測によると、インド経済は2025年度に6.3%の成長が見込まれており、2025年1月の6.7%予測からわずかに下方修正されている。この下方修正は、世界的な不確実性による輸出への圧力を反映しているが、インドは依然として世界で最も急速に成長する主要経済国であると予測されている。

スタンダード&プアーズ(S&P)グローバル・レーティングは6月25日に発表した「アジア太平洋地域2024年第3四半期経済見通し」において、保護貿易主義や地政学的リスクといった世界的な課題に直面しているにもかかわらず、インド経済の勢いは底堅い国内需要に大きく支えられると強調した。

クッシュマン・アンド・ウェイクフィールドは最近発表した報告書「Elevating India: Charting the Path to Self-Reliance (インドの発展：自立への道筋)」の中で、堅調なインフラ整備と政府の支援政策によって、インドの製造業は大きな変革を遂げていると指摘している。この調査結果は、CEO、工場長、サプライチェーン・マネージャーなど、製造・物流業界の94名のシニアリーダーを対象とした調査に基づいている。

この報告書は、プラグアンドプレイ型工業団地の目覚ましい成長、複合一貫物流ネットワークの拡大、そして中小零細企業の生産性向上を目的とした投資に焦点を当てていることを強調している。これらの動きは、製造業の拡大を加速させ、世界市場におけるインドの競争力を高めることに貢献している。

政府は「Make in India」イニシアチブ、特に防衛製造業の推進に継続的に取り組んでおり、その結果、国内生産額は過去最高の170億9000万ドルに達し、同分野の輸出額も2024～25年度には28億1000万ドルに増加した。インド企業は現在、戦闘機やミサイルといった従来の技術にとどまらず、サイバー戦争、宇宙能力、人工知能(AI)を活用したプラットフォームへの投資を拡大している。

さらに、インドの再生可能エネルギー発電量は2025年上半期に前年比24.4%増の1344億3000万kWhに達し、2022年以来の急成長を記録した。同国は2024年の28GWから2025年には32GWの再生可能エネルギー発電容量を追加すると予想されている。

参考までに、最近発表されたプロジェクトや投資関連ニュースをいくつかご紹介します。

- フォックスコンは、事業拡大とチェンナイ近郊への新部品工場建設のため、22億ドルを投資している。フォックスコンは現在、インド全土に12の工場を保有している。2025年3～5月期には、インドで生産されたiPhoneの97%、つまり32億ドル相当を輸出した。
- タタ・アドバンスト・システムズ(TASL)とダッソー・アビエーションは、ラファール戦闘機の胴体をインドで製造するための生産移管契約を締結した。契約に基づき、TASLはハイデラバードに生産施設を設立し、後部胴体の側面シェル、後部セクション全体、中央胴体、前部セクションなど、ラファールの主要構造部分を製造する。最初の胴体セクションは2028年度に組立ラインから出荷される。計画されている施設では、毎月最大2機の胴体完成品を納入する予定。

- パリ航空ショーで発表されたように、リライアンス・エアロストラクチャー・リミテッド(RAL)とダッソー・アビエーションは、世界中の顧客向けにファルコン2000ビジネスジェット機の生産をインドに移管するための戦略的提携を結んだ。連合体であるダッソー・リライアンス・エアロスペース・リミテッド(DRAL)は、ナグプールのマルチモーダル国際貨物ハブにファルコン2000の最終組立ラインを建設する。このハブは、ファルコン全機種グローバル・センター・オブ・エクセレンス(Centre of Excellence)にもなる。
- Safranは、ラファール戦闘機のM88エンジンの整備・修理・オーバーホール(MRO)施設として、ハイデラバードにサフラン・エアクラフト・エンジン・サービス・インディアを設立する。新会社は2026年末までに操業を開始する予定。同社のゼネラルマネージャー、ピエール・フェルナンデス氏は、この施設がCFMインターナショナルのLEAPエンジンMROサービスも取り扱うと述べた。サフランは既にハイデラバードに2つの主要な工場を保有している。LEAPエンジンとラファール戦闘機用の電気ハーネスを製造するサフラン・エレクトリカル&パワー・インディアと、LEAPエンジンの低圧タービン用回転部品を製造するサフラン・エアクラフト・エンジンである。
- PTCインダストリーズの完全子会社であるエアロロイ・テクノロジーズ社(ATL)は、サフラン社と軍用航空機エンジン向け部品および材料の開発・製造に関する覚書(MOU)を締結した。ATLはラクナウにある50エーカーの施設への投資を通じて事業を拡大しています。この工場には、インゴット、ビレット、バー、プレートなどを加工できるチタンおよび超合金製ミルが設置される。シート鋳造工場では、真空アーク再溶解、熱間静水圧プレス、CNC加工、非破壊検査などを行う。
- リライアンス・ディフェンスは、ドイツのディール・ディフェンスと、ヴルカノ155mm精密誘導弾システムの現地生産に関する戦略的協力契約を締結した。ヴルカノは、長距離・高精度攻撃用に設計された先進的な砲弾である。
- ヒンドウスタン・エアロノーティクス・リミテッドとGEエアロスペースは、インドでF-414エンジンを共同生産するための契約を締結した。これらのエンジンは、テジャスMk-IIおよび将来の先進中型戦闘機(ACM)に搭載される。
- マックス・エアロスペース・アンド・アビエーションは、インド初の民間ヘリコプター製造工場をナグプールに建設する計画です。同社は、民間および防衛部門向けに小型および中型ヘリコプターを生産する予定。
- Bharat Forgeは、フランスに拠点を置くTurgis Gaillardと提携し、インドでAarok無人航空機(UAV)の共同開発・製造を開始した。Aarokは中高度・長時間滞空型のUAVです。

(AMT Online 2025年7月9日)

◆知られざる存在：FinDreams が拓く BYD の「部品帝国」

中国・深圳を拠点とする電気自動車(EV)大手BYD(比亞迪)は、2020年3月、従来の車両製造体制を一步進め、部品事業を専門としたサブブランド「FinDreams(弗迪)」を立ち上げた。目的は明快である――自己完結型部品サプライチェーンを形成し、BYD車はもちろん、グループ外の自動車メーカーにも部品を供給し、グローバルな展開を加速することだ。

■ 設立の理由と背景

BYDはもともとバッテリー製造企業として1995年に創業し、その後、電動モーターや制御システムを自社開発してきた。2020年、EV市場の拡大を見据え、部品事業を独立した「FinDreams」として切り出すことで、他社OEMへの提携を円滑化し、BYDの「縦断的垂直統合」を外販でも生かす戦略にシフトした。この戦略は、「海外市場では独立体制が決定権や提携余地を高めやすい」との分析に基づくもので、実際に欧米・アジアでの営業活動にも拍車をかけている。

■ 設立の理由と背景

法人名	生産品目
FinDreams Battery Co., Ltd.	電動車用LFPバッテリー(Blade Battery含む)、蓄電池、消費電池(fdbatt. com, en.wikipedia. org)
FinDreams Powertrain Co., Ltd.	電動モーター、トランスミッション、アクスル、EV・PHEV用プラットフォーム
FinDreams Technology Co., Ltd.	車載電子、シャシー(熱管理、ADAS、スマートコックピット、ハーネス、制御系など)
FinDreams Precision Co., Ltd.(旧Moulding)	プラスチック成形部品・金型製造

FinDreams Powertrainは、EVモーターや駆動系(e driveシステム)を一手に担う。米欧での部品調達リスクの低減、高効率なシステム統合、開発・生産のスピード向上を実現する中核子会社だ。BYDのe PlatformやBlade Batteryと連携することで、走行性能・エネルギー効率・信頼性において競争力を高めている。

■ BYD グループにおける位置付け

BYDグループはこれまで“全ての車両部品を自社内製”する「垂直統合モデル」で強みを発揮してきたが、FinDreamsはそれを外販構造に昇華させるための“ハブ”である。特にPowertrainを含むFinDreams系列は、BYD車のみならず、グローバルなOEM供給拠点としての基盤を築き、「BYD部品帝国」の礎となっている。

■ グローバル展開における供給網の構築

BYDグループが海外市場で急拡大する過程で、最大の課題の一つは現地における部品サプライチェーンの構築コストとリードタイムであった。

通常、自動車メーカーが新市場に進出する際には、現地の部品メーカーの選定、品質検証、物流網の確立といった膨大な準備期間とコストを要する。

これに対し、FinDreamsは「自社内完結型のグローバル供給網」を標榜し、事前に中国国内で垂直統合された部品サプライヤーとしての体制を確立。さらに、バッテリーやパワートレインを自社グループ内で製造・供給することで、以下の3点でBYDの海外事業を強力に後押ししている。

1. 現地サプライチェーン開拓の省力化

FinDreamsはBYDの主要部品をグループ内で一括供給するため、海外の新規拠点において「サプライヤー探し」「現地化調整」といったプロセスを簡略化。部品品質の均一化、立ち上げスピードの大幅向上を実現している。

2. 調達リスクとコストの最小化

一般的な自動車メーカーでは、多層的な外部調達が必要となり、地政学リスクやコスト変動の影響を受けやすい。FinDreamsはこれを内製化・一括管理することで、BYDの価格競争力と供給安定性を支えている。

3. グローバル標準品の集中開発・展開

FinDreamsは「Blade Battery」や「e-Platform 3.0」など、BYDのグローバル戦略商品を一元開発・生産し、世界各地の生産拠点へ直接供給可能な体制を構築。これにより部品設計・仕様の統一化が進み、車両ごとの個別最適を必要としない、効率的な製造が可能となっている。

■ 事例：ハンガリー新工場と FinDreams の連動

BYDが2024年に発表したハンガリー工場の建設計画でも、FinDreamsグループのサプライチェーンが前提とされている。従来であれば、欧州の現地部品メーカーとの提携や品質立ち上げに数年を要するが、FinDreams製バッテリーやパワートレインを中国から供給することで、現地生産立ち上げまでの時間を圧倒的に短縮し、競合他社を上回る市場投入スピードを確保しようとしている。

(MIR ニュース 2025年7月11日))

◆米国製造業にとっての大きな勝利：ワン・ビッグ・ビューティフル・ビルが成立

ドナルド・トランプ大統領は、2025年7月4日にワン・ビッグ・ビューティフル・ビル(OBBB)法に署名し、米国の製造業にとって画期的な勝利を収めた。独立記念日と同日を象徴的に迎え、この法律が米国の産業の未来にとっていかに重要であることを強調した。この包括的な新法は、製造業の活性化を目的とした、長年待ち望まれていた税制優遇措置、投資機会、そして財政支援策をパッケージとして提供する。これは、AMT（米国製造技術工業協会）の製造業マンドートと密接に連携しており、国内生産の強化と、今日の予測不可能な経済環境において製造業に切望されている確実性の提供を目指した、数ヶ月にわたる献身的なアドボカシー活動と政策活動の成果を反映している。

OBBB法には、製造業者や中小企業に直接的な利益をもたらす複数の条項が含まれており、資本投資の刺激、イノベーションの促進、そして世界市場における米国の競争力維持に役立ちます。

- **100% ボーナス減価償却（復活・恒久化）**：企業は、2025年1月19日以降に稼働を開始した製造設備、機械、施設などの対象資産の取得価額全額を即時に控除できるようになった。重要な点として、このボーナス減価償却の恩恵は、国内製造業で使用する対象生産資産については2032年まで延長される。この規定により、企業は遅延税制優遇の負担を負うことなく、生産能力の向上や最先端技術の導入を促進できる。

- **セクション 179 の費用計上（倍増）**：中小企業向けのセクション 179 の費用計上上限が125万ドルから250万ドルに倍増され、より多額の設備購入を初年度から全額費用計上できるようになった。この変更により、中小企業が重要な資産に先行投資する能力が大幅に向上し、大手競合他社との競争条件が均衡化される。

• **セクション 199A 控除（拡大・恒久化）**：パススルー事業控除（対象となる企業が所得の一部を控除できる）が恒久化され、税率が 23% に引き上げられた。この強化により、パートナーシップ、S コーポレーション、または個人事業主として事業を営む中小規模の製造業者は大幅な税制優遇を受け、キャッシュフローと競争力が向上する。

• **研究開発費の計上（即時償却）**：新たに導入されたセクション 174A に基づき、米国における研究開発費は、発生年度に全額を費用計上できるようになった。これにより、これらの費用を複数年にわたって償却していた従来のルールが覆される。この変更により、製造業者はイノベーションへの投資を増やし、新製品や新技術の開発を加速させることができる。

• **半導体投資税額控除（増額）**：半導体製造施設に対する投資税額控除は、2026 年以降に稼働開始する資産について、25% から 35% に引き上げられた。この条項は国内の半導体生産を支援し、海外サプライヤーへの依存度を低減し、サプライチェーンのレジリエンス強化に貢献する。

• **相続税免除（引き上げおよび固定）**：中小企業経営者の相続税免除額が引き上げられ、個人申告の場合は 1,500 万ドル、共同申告の場合は 3,000 万ドルに恒久的に固定された。この調整により、家族経営の製造業は、懲罰的な税負担に直面することなく、世代を超えて資産を維持できるようになる。

• **支払利息控除（資金調達控除）**：この法案は、EBITDA ベースの控除ルールを 2029 年まで復活させ、投資、買収、および拡張の資金調達に関連する支払利息の控除額を拡大することで、製造業者に救済措置を提供する。

AMTは、この変革的な法案の推進において重要な役割を果たし、関連団体、業界連合、そして議員と緊密に協力し、立法プロセス全体を通して全国の製造業者の声が反映されるよう努めた。OBBA法の成立と署名は、世界経済のダイナミクスが急速に変化する中で、米国の製造業の競争力強化、イノベーションの促進、そして国内投資の促進に向けた大きな前進となる。

この法律の規定が施行されれば、製造業者は、成長、近代化、そして回復力を強化する、より予測可能で支援的な税制環境を期待できる。

（AMT ONLINE 2025年7月8日）

◆ BIS、中国企業に対する VEU を終了する取組み

米国商務省産業安全保障局(BIS)は、中国で事業を展開する外国企業に対する検証済みエンドユーザー (VEU) プログラムの認可を迅速に終了させる取組みを進めている。

サムスン、ハイニックス、インテルといった企業は、VEUの認可を受けており、これにより、規制対象の米国製品を中国事業所に輸出することが可能となっている。これらの技術・製品は、通常は輸出許可なしに中国国内への持ち込みや中国企業による購入が認められていない。VEUは、資格を満たす企業が通常の許可手続きを経ることなく、規制対象商品を輸入・使用することを可能にする。

VEUの特権は、過去に華虹半導体を含む中国企業にも付与されていたが、2024年12月に正式に取り消された。

今回の外資系企業に対する特権の取り消しは、米国による対中輸出管理政策と執行の顕著な強化を示している。

米国当局は、サムスン、ハイニックス、その他中国における外資系半導体メーカーに対し、明確な指針を示した。

- 中国拠点の施設に対する技術アップグレードの承認は今後一切行わない。
- 両社は、5年以内に中国での事業を閉鎖するよう勧告されている。
- BISは、各社と協力し、米国産品の輸出すべてに個別のライセンスが必要なわけではない輸出ライセンス制度の構築を目指す。両社は、単一のライセンスで複数の輸出を可能にする「一括」ライセンスについて交渉中。

実施されれば、これは大きな政策転換となり、企業に中国への多額の投資を放棄するよう圧力をかけることとなる。

インテルは、中国の大連にあるNAND製造・パッケージング／テスト施設に約40億ドルを投資したと推定されているが、この施設は2025年3月にハイニックスに買収された。

サムスンは、中国西安のNANDフラッシュ工場に総額258億7000万ドルを投資している。これには、第1フェーズの初期投資108億7000万ドルと、第2フェーズへの70億ドルと80億ドルの投資が含まれる。西安工場はサムスンにとって最大の海外メモリチップ生産拠点である。SKハイニックスは中国・無錫に大規模なDRAM生産能力を有している。2023年5月、同社は無錫工場の既存プロセスを拡張し、DDR3およびDDR4 4Gb製品に注力すると発表した。これは、米国によるより高度な半導体製造装置の禁止措置によるものである。

マイクロンは中国・西安にあるパッケージングおよびテスト工場に投資しており、モバイルDRAM、NAND、SSD製品を製造している。具体的には、マイクロンは2005年以降、主に西安工場を中心に中国に110億元(約15億米ドル)以上を投資してきた。IBSエレクトロニクスによると、これには2023年6月に発表されたDRAMパッケージングおよびテストに重点を置いた6億ドルの拡張が含まれている。西安工場では、2025年後半に新たなパッケージングおよび試験工場の生産を開始する予定である。

米国政府は、エンティティリスト掲載企業(SMICなど)の子会社がELリスト掲載親会社によって少なくとも50%所有されている場合、制限対象事業体に指定する新たな規則を準備している。

この規則が最終決定されれば、中国の半導体業界に対する規制が強化され、関連会社を通じた米国製品および技術へのアクセスが制限されると予想される。

中国当局の対応は依然として不透明だが、これらの政策の累積的な影響は、中国国内の半導体産業の事業能力と戦略計画に大きな影響を及ぼすと予想される。

(Global USA 2025年7月3日)

3. 工作機械関連企業動向

◆【韓国発】工作機械の頭脳「CNC」の国産化に成功

韓国産業通商資源部と韓国機械研究院を筆頭に「K-CNC」の開発に成功し、外国産依存度の削減を期待

工作機械など精密機械製造装備に使われるCNCは高い技術水準を要求されるため、これまで国内主要工作機械製造会社も大部分日本産製品を使ってきた。

しかし、2019年の日本との貿易紛争以後、これに対する国産化に対する要求が進行された。

産業通商資源部(以下、産業部)と韓国産業技術企画評価院、韓国機械研究院(以下、機械研究院)、KCC、韓国工作機械産業協会(以下、工作機械協会)は18日、大田の韓国機械研究院で「国産CNCシステム試演会および成果発表会」を開催した。

午前の試演会と午後の成果発表会に分けて行われたこの日の行事には産学研関係者200人余りが参加し、国産化されたCNC技術を直接見れると同時に主要関係者たちと随時疎通しながら疑問を解消したりもした。

産業部は、機械研究院を筆頭に20社以上の関連企業・研究所・学界を課題に参加させ、ウィア工作機械(前現代ウィア)とSMECなど関連企業は成功的な技術開発と事業化のために合弁法人である(株)KCNCまで設立した。

5年間の開発の末、先月は実際の現場のオペレーター6人を渉外し、客観的な評価を受けたりもした。

彼らは加工誤差と表面品質など主要性能指標で先進CNCと似た水準に到達したと評価した。

韓国工作機械産業協会のケ・ミョンジェ会長は祝辞で「CNCシステムは工作機械産業の心臓と言える核心技術」とし「今回の事業は単純な制御ソフトウェア開発を越え、モーションコントローラー、ドライブ、サーボモーター、インターフェース、HMIなどCNCシステム全般の構造を合わせた統合的技術開発で、全幅的なソフトウェア支援と迅速な技術支援体系を備えることこそ顧客を確保できる核心競争力になるだろう」と話した。

(産業日報 6月18日付)

<https://kidd.co.kr/news/242038>

◆ Hurco 社、2025 会計年度第 2 四半期結果

Hurco、2025年4月30日を期末とする第2四半期の業績を発表した。Hurcoは、2025年度第2四半期に4,063,000ドル、または1株当たり希薄化後0.62ドルの純損失を計上した。これには、法人税引当金に計上された1,270,000ドルの非現金税評価引当金が含まれている。2025年度第2四半期の純損失は4,063,000ドルで、2024年度の同時期の純損失3,922,000ドル(希薄化後1株当たり0.61ドル)と比較したものである。2025年度の最初の6か月間について、Hurcoは8,383,000ドル(希薄化後1株当たり1.29ドル)の純損失を報告した。これは、2024年度の同時期の純損失5,570,000ドル(希薄化後1株当たり0.86ドル)と比較したものである。2025年度の最初の6か月間の純損失には、法人税等引当金に計上された3,655,000ドルの非現金性税務評価引当金が含まれている。

2025年度第2四半期の販売手数料およびサービス手数料は40,867,000ドルで、前年同期比4,305,000ドル(10%)減少した。これは、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した際に、211,000ドル(1%未満)の為替変動による有利な影響を含んでいる。2025年度上半期の販売手数料およびサービス手数料は

87,281,000ドルで、前年同期比2,950,000ドル(3%)減少した。これは、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した際に、223,000ドル(1%未満)の為替変動による不利な影響を含んでいる。

グレッグ・ヴォロヴィッチ最高経営責任者(CEO)は次のように述べている。「私たちは皆、世界市場において大きな不確実性の時代を生き抜いている。国内外の売上予測において直面する課題は、製造業や産業セクターの多くの企業が抱える共通の課題である。私たちは、長期戦略の遂行と財務基盤の強化に引き続き注力している。キャッシュフローの強化とコスト削減に向けた計画的な措置を講じることで、バランスシートを維持し、収益性回復に注力することができる。市場状況に関わらず、Hurcoは製品開発への投資に全力で取り組み、変化する市場の需要に応える世界クラスの製品と能力を提供し続け、勢いが戻った際に迅速に対応できる体制を整えていく。」

以下の表は、2025年4月30日および2024年4月30日までの第2四半期および6ヶ月間の地域別純売上高およびサービス料を示している。

(単位：千ドル)

	Three Months Ended April 30				Fiscal Year Ended April 30			
	2025	2024	\$ Change	% Change	2025	2024	\$ Change	% Change
Americas	\$15,361	\$16,947	(\$1,586)	(9)%	\$33,469	\$33,597	(\$128)	0%
Europe	21,608	22,720	(1,112)	(5)%	43,222	45,470	(2,248)	(5)%
Asia Pacific	3,898	5,505	(1,607)	(29)%	10,590	11,164	(574)	(5)%
Total	\$40,867	\$45,172	(\$4,305)	(10)%	\$87,281	\$90,231	(\$2,950)	(3)%

2025年度第2四半期および上半期の米国における売上高は、2024年度の同時期と比較して、それぞれ9%および1%未満の減少となった。これは主に、HurcoおよびTakumi機械の出荷数の減少、ならびに当社の完全子会社である国内販売代理店によるその他のOEM機械の販売数の減少によるものです。機械販売数の減少は、主にHurco VMXおよびTakumi橋梁・横型機械の出荷数の減少による。

2025年度第2四半期の欧州における売上高は、2024年度の同時期と比較して5%減少した。これには、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した際に、1%の為替変動によるプラス影響が含まれている。2025年度上半期の欧州売上高は、2024年度の同時期と比較して5%減少した。これは、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した際に、1%未満の為替変動によるマイナス影響を含んでいる。欧州売上高の前年同期比減少は、主にドイツ、フランス、イタリアにおけるHurcoおよびTakumiマシンの出荷量の減少、ならびに当社の完全子会社であるLCM Precision Technology S.r.l. (以下「LCM」)が製造する電気機械部品および付属品の出荷量の減少によるもので、英国における高性能Hurcoマシンの出荷量の増加によって一部相殺されている。

2025年度第2四半期のアジア太平洋地域の売上高は、前年同期比で29%減少した。これは、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した際に、1%の為替変動によるマイナス影響を含んでいる。2025年度上半期のアジア太平洋地域の売上高は、前年同期比で5%減少した。これは、財務報告のために海外売上高を米ドルに換算した際に、2%の為替変動によるマイナス影響を含んでいる。アジア太平洋地域の売上高が両期間とも前年同期比で減少したのは、主にインドにおける高性能および5軸加工機「Hurco」および「Takumi」の販売減少によるもので、中国および東南アジアにおける「Hurco VM」および「Takumi」のブリッジミル加工機および横形加工機の出荷量増加によって一部相殺されている。

2025年度第2四半期の受注額は4,370万ドルで、2024年度の同時期比で49万2,000ドル(1%)減少した。これは、海外売上高を米ドルに換算した際に、7万2,000ドル(1%未満)の為替変動によるマイナス影響を含んでいる。2025年度上半期の受注額は83,785,000ドルで、2024年度の同時期と比較して10,625,000ドル(11%)減少した。また、外国からの受注額を米ドルに換算した場合、為替変動によるマイナス影響は302,000ドル(1%未満)であった。

以下の表は、2025年4月30日および2024年4月30日までの第2四半期および6ヶ月間の地域別新規受注額を示している。

(単位：千ドル)

	Three Months Ended April 30				Fiscal Year Ended April 30			
	2025	2024	\$ Change	% Change	2025	2024	\$ Change	% Change
Americas	\$16,945	\$17,069	(\$124)	(1)%	\$31,588	\$37,865	(\$6,277)	(17)%
Europe	21,086	23,873	(2,787)	(12)%	40,456	47,408	(6,952)	(15)%
Asia Pacific	5,669	3,250	2,419	74%	11,741	9,137	2,604	28%
Total	\$43,700	\$44,192	(\$492)	(1)%	\$83,785	\$94,410	(\$10,625)	(11)%

2025年度第2四半期の南北アメリカ地域における受注は、2024年度の同時期と比較して1%減少した。これは主に、当社の完全子会社である国内販売代理店が販売するOEM機の需要減少によるものだが、Milltronics機に対する顧客需要の増加によって一部相殺されている。2025年度上半期の南北アメリカ地域における受注は、2024年度の同時期と比較して17%減少した。前年同期比での受注の減少は、主にHurco機およびTakumi機に対する顧客需要の減少と、当社の完全子会社である国内販売代理店が販売するOEM機の需要減少によるものだが、Milltronics機に対する顧客需要の増加によって一部相殺されている。

2025年度第2四半期の欧州地域における受注は、前年同期と比較して12%減少した。これには、海外からの受注を米ドルに換算した際の1%未満の為替変動によるプラスの影響が含まれている。受注の減少は、主にドイツと英国におけるHurcoおよびTakumiマシンに対する顧客需要の減少によるもので、イタリアにおけるHurcoマシンおよびLCM製の電気機械部品・付属品に対する顧客需要の増加によって一部相殺された。2025年度上半期の欧州における受注は、前年同期比で15%減少した。これは、海外からの受注を米ドルに換算した場合、1%未満の為替変動によるマイナス影響を含んでいる。前年同期比での減少は、主にドイツ、英国、フランスにおけるHurcoマシンに対する顧客需要の減少、およびLCM製の電気機械部品・付属品に対する顧客需要の減少によるもので、イタリアにおけるHurcoマシンに対する顧客需要の増加によって一部相殺された。

2025年度第2四半期のアジア太平洋地域における受注は、前年同期比で74%増加した。これは、海外からの受注を米ドルに換算した場合、3%の為替変動によるマイナス影響を含んでいる。2025年度上半期のアジア太平洋地域における受注は、前年同期比で28%増加した。これは、外国からの受注を米ドルに換算した際に、為替によるマイナス影響が2%含まれているためである。アジア太平洋地域における受注の前年同期比増加は、主に、当社の顧客が所在するアジア太平洋地域全体におけるHurcoおよびTakumiマシンの需要増加によるものである。

2025年度第2四半期の売上総利益は7,829,000ドル(売上高の19%)で、前年同期の8,019,000ドル(売上高の18%)と比較して増加した。売上高に占める粗利益の割合が前四半期比で増加したのは、主に欧州の売上高が総売上高に占める割合が3%増加したことと、2024年後半に実施したコスト削減に伴い間接費に割り当てられた固定費が減少したことによるものである。2025年度上半期の粗利益は16,119,000ドル(売上高の18%)で、前年同期の17,714,000ドル(売上高の20%)と比較して減少した。売上高に占める粗利益の割合が前年同期比で減少したのは、主に南北アメリカとヨーロッパで垂直フライス盤の販売量が減少したことによるものである。これらの地域では、通常、高性能なVMXシリーズの機械や旋盤の販売量が多くなっている。

(Hurco News Release 2025年6月)

◆ CHIRON グループ サステナビリティレポート 2024

CHIRONグループの新サステナビリティレポートは、昨年のレポートと同じタイトル「WE ARE ONE (私たちは一つ)」を掲げている。このタイトルは、CHIRONグループと世界各地の拠点のチームが、より持続可能な未来に向けて共に歩み続けるという継続的なコミットメントを強調している。このレポートは、困難な時期であっても、環境目標と経済目標をいかにして両立させることができるかを、具体的かつ透明性が高く、分かりやすい方法で示している。

2024年のレポートは、スコープ1、2、3におけるCO₂削減の進捗、世界各地の拠点における太陽光発電システムなどの新たな取り組み、そしてドイツにおける完全なグリーン電力供給に焦点を当てている。これらの進展は、サステナビリティが単なる目標ではなく、CHIRONグループの企業戦略の不可欠な要素であることを強調している。

「世界中で共に」 — 環境のために、そして成功のために

この指針のもと、CHIRONグループは、ますます緊密に連携を深めているグローバルネットワークである。グループは、グローバルな成長戦略を着実に推進すると同時に、持続可能な製造技術と革新的なソリューションを通じて、環境変化に貢献する企業としての責任を強化している。

2024年版サステナビリティレポートでは、CHIRONグループが世界各地の拠点で実施している、カーボンフットプリントの削減と資源効率の高い製造の推進に関する具体的な取り組みを紹介している。中央管理による対策に加え、グローバルなサステナビリティ目標の達成に大きく貢献する、地域に根ざした取り組みも数多く実施されている。

例えば、ノイハウゼンでは、冷却潤滑油の再処理システムを追加導入し、潤滑油、化学薬品、水の使用量を大幅に削減した。CHIRONチェコは、エネルギー需要の大部分を再生可能エネルギーで賄っており、中国・太倉の拠点は、省エネ、資源効率、環境保護における成果が公式に認められている。クロアチアのザダル工場は、モータースピンドルの修理サービスを通じて、CHIRONグループのマシニングセンターの中核部品であるスピンドルの長期使用を確保し、お客様の持続可能性向上にも貢献している。

資源最適化製造のためのイノベーション

Micro5 XLは、持続可能な製造におけるCHIRONグループの革新的強みを如実に示す例である。この新型マイクロマシニングセンタは、あらゆる面で資源最適化された生産を体現している。省エネルギー、最高の精度、そして高い生産性を非常にコンパクトな設置面積で実現するMicro5 XLは、環境負荷の削減に積極的に貢献する。「Micro5 XLは、現在そして将来のニーズに応える製品ポートフォリオの継続的な発展を象徴している。これにより、お客様は競争力を維持しながら、持続可能な製造プロセスを実現できる」と、CTOのクラウス・エプラー博士は述べている。

測定可能な成功と継続的な野心的な目標

CHIRONグループは、2023年にScience Based Targets Initiative (SBTi)の一環として、野心的な排出削減目標を設定した。これらには、2018年を基準年として、2028年までにスコープ1およびスコープ2のCO₂排出量を50%削減することが含まれる。同時に、同じ期間内にスコープ3のCO₂排出量を25%削減することを目指している。「SBTi認証の目標は、カーボンフットプリントをさらに削減するための明確な方向性と具体的なロードマップを示しています」と、クラウス・エプラー博士は述べている。

CHIRONグループは、今後も持続可能な技術とプロセスへの投資を継続し、その目標を積極的に追求している。「地球規模の課題に立ち向かい、共に責任を果たすという意欲は、私たちの強みの一つです。より持続可能な未来に向けた変革を成功させるには、皆様のコミットメントと協力が不可欠です」と、CHIRONグループのCFOであるマルクス・ウンターシュタインは強調している。

(Chiron News Release 2025年7月1日)

◆ Seco と HELLER の新たなパートナーシップは、機械加工技術の変革を目指す

Seco Tools ABおよび Heller Maschinenfabrik GmbHは、顧客のニーズに合わせた高度で効率的な機械加工ソリューションを提供するために、戦略的開発および技術パートナーシップを締結した。

2月に開催されたSeco ITI 2025専門家会議で正式に承認されたこの提携は、革新的な加工プロセスの共同開発、製品の最適化、そして市場投入の加速に重点を置いている。この提携により、Secoの最先端工具技術とHELLERのCNC工作機械および製造システムを融合させ、統合された高性能ソリューションを提供する。

両社のエンジニアと技術専門家からなるクロスファンクショナルチームは、専門知識の共有、共同開発プロジェクトの推進、そして加工技術の革新を促進するために緊密に連携する。

自動車産業や航空宇宙産業を含む、様々な業界のお客様は、カスタマイズされプロセス最適化されたソリューションの恩恵を受けることができる。また、この提携には、両社の統合された能力を最大限に活用できるよう、包括的なトレーニングプログラムと技術サポートも含まれている。

SecoのCEOであるStefan Steenstrup氏は次のように述べている。「当社の切削工具をHELLERの高度なCNCシステムに統合することで、現代の製造業が直面する現実的な課題に対応する包括的なソリューションを提供する。このプロジェクトベースの提携は、機械工学および航空宇宙分野のお客様にとって大きな価値を提供する。」

HELLER社のCSOであるピーター・ウェーバー氏は次のように述べている。「Secoとの提携により、お客様の加工ニーズを包括的に捉えることができる。私たちは共に、将来を見据え、かつ特定の製造課題に合わせた革新的な技術の開発と検証に取り組んでいる。」

Seco について

スウェーデンのファゲルスタに創業し、75カ国以上に拠点を持つSecoは、スローアウェイフライス加工、ソリッドフライス加工、旋削加工、穴あけ加工、ねじ切り加工、そしてツーリングシステムといった金属切削ソリューションを提供する世界有数の企業である。Secoは100年近くにわたり、製造工程全体を通して卓越性を追求し、高精度加工と高品質な成果を実現してきた。

(Heller News Release 2025年7月8日)

4. 展示会情報



SIMTOS 2026 ジャパンパビリオン出展のご案内

2026 年 4 月、韓国最大級の工作機械見本市「SIMTOS 2026」が開催されます。本展示会への出展に際し、ジャパンパビリオンとしての出展をご案内いたします。

○開催基本情報

- ・ 名 称 SIMTOS 2026(第 21 回ソウル国際工作機械展覧会)
- ・ 主 催 韓国工作機械産業協会 (KOMMA)
- ・ 会 期 2026 年 4 月 13 日 (月) ~17 日 (金) 《5 日間》
- ・ 会 場 新韓国国際展示場 (KINTEX 1 & 2)
- ・ 出展対象 工作機械およびその関連機器等

○小間料 1 小間：3 m×3m=9 m² (ロースペース)

申込区分	申込期日 (2025 年)	小間料 (USD)	割引率
アーリーバード	5/31 まで	USD 2,268	41.5%
一般 A	6/1-7/31	USD 2,817	27.4%
一般 B	8/1-10/31	USD 3,384	12.8%
レイト	11/1~	USD 3,879	-

■ジャパンパビリオンとして出展すると以下のメリットがあります

①KINTEX 1 内におけるパビリオン出展場所の確保

会場内で人通りの多い KINTEX 1 にまとまって出展いただけます。

※鍛圧機械は類別展示により別エリアになる可能性があります。

②デポジットなしの個別支払い

9/30 までデポジット不要で、主催者より各社宛に個別で請求書が送付されます。

③割引期間の延長

通常は 2025 年 5 月 31 日までのアーリーバード割引 (41.5%) が、ジャパンパビリオン出展者に限り 2025 年 9 月 30 日まで適用されます。

○お申込方法

別添の申込手順をご確認のうえ、以下の URL もしくは QR コードよりお手続きをお願いいたします。また、お申込みが完了しましたら、日工会 本多宛てにご一報いただけますようお願いいたします。

※なお、お申込みの際は、必ず「Japan-JMTBA (Japan Machine Tool Builders' Association)」をご選択ください。こちらを選択いただかない場合、ジャパンパビリオンとしての各種メリットが適用されませんのでご注意ください。

◆SIMTOS2026 出展申込 URL : <https://c.simtos.org/eng/exhibitor/ExhibitorRegStep1.do>

◆SIMTOS2026 出展申込 QR コード :



問合せ先
(一社) 日本工作機械工業会
業務国際部 本多
TEL : 03-3434-3961
E-mail : honda@jmtba.or.jp

5. その他

◆ユーザー産業動向

セメント業界初の CCS 実用化、ハイデルベルクがノルウェーで始動

独建材大手ハイデルベルク・マテリアルズは18日、ノルウェー南部ブレビックのセメント工場で、セメント業界として世界初となる工業規模のCO₂分離・貯留(CCS)施設の開所式を行った。ホーコン・マグヌス王太子らが出席した式典で、ドミニク・フォンアハテン社長は「ネットゼロのセメントは未来の夢ではなく、現実となった」と語った。

ブレビック工場では年間80万トンのCO₂が排出されるが、新設されたCCS設備によりその半分の40万トンを分離できる。分離されたCO₂は液化後、船でノルウェー西部オイガーデンに輸送され、そこから北海の枯渇油田・ガス田へパイプラインで送り込み貯留される。実際の貯留は8月にも開始される予定で、輸送・貯留はノーザン・ライツ(エクイノール、トタルエナジーズ、シェルのJV)が担う。

同社はこの取り組みにより排出量実質ゼロのセメント「エヴォゼロ(evoZero)」を欧州市場に投入。2024年生産分はすでに完売しており、競合不在の中で当面は独走が続く見通し。将来的には他の欧州工場にもCCS設備を拡大する。

「エヴォゼロ」は、ブレビック工場で生産された製品を直接顧客に届ける方式に加え、同工場で分離されたCO₂を他地域のセメント生産に“割り当てる”バーチャル方式でも提供される。これにより、遠隔地での使用に伴う輸送起因の排出を抑えることが可能になる。

このCCS施設は、ノルウェー政府が主導する「ロングシップ・プロジェクト」の一環で、投資額4億ユーロのうち8割が公的補助で賄われた。今後10年間の運営費も国が支援するが、将来的には排出量取引価格の上昇や技術革新、スケールメリットによって自立運営が求められる見通しだ。

(プレスリリース 6月18日付)

<https://www.heidelbergmaterials.com/de/pi-2025-06-18>

ポーランドのオルレン、水素 2 事業に国家復興基金から 4 億ユーロ支援

ポーランドの石油・エネルギー大手オルレンは17日、水素関連の2プロジェクト「Green H2」と「Hydrogen Eagle」に対し、国家復興計画基金から総額17億ズロチ(約4億ユーロ)の助成を受けると発表した。

Green H2は、グダニスク製油所向けにグリーン水素を製造する計画で、100メガワット(MW)級の電解装置とエネルギー貯蔵システムの設置を含む。運営は、オルレン傘下のLOTOS Green H2が担う。

一方のHydrogen Eagleは、オルレン本体が手がけるプロジェクトで、再生可能エネルギーや都市ごみを用いた水素製造を通じて、供給源の多様化と脱炭素化を図る。欧州域内の水素インフラ強化や再生エネ拡充にも寄与する取り組みだ。

オルレンは2035年までにグリーン水素の生産能力を0.9ギガワット(GW)に拡大する目標を掲げており、その大半となる0.7GWはポーランド国内で整備する。また、水素事業の技術基盤強化を目的に、同社のVC部門であるオルレンVCは5月、ノルウェーの電解槽メーカー、ハイスター(Hystar)への出資を行った。

(Fuel Cells Works 6月17日付)

<https://fuelcellsworks.com/2025/06/17/green-investment/orlen-secures-390m-for-clean-hydrogen-projects>

独 RWE、蘭で初の超急速蓄電池を稼働 送電網の安定化へ一歩

独エネルギー大手RWEは16日、オランダ南部ムールデイクの発電所敷地内に設置した超急速蓄電池の商業運転を開始したと発表した。同社にとって初の蓄電池設備であり、今後グローバルに展開する蓄電池容量拡大戦略の先駆けと位置付けている。

本蓄電池は、仏トタルエナジーズと共同推進する洋上風力発電プロジェクト「オラニエウインド(OranjeWind)」の一環として導入された。採用されたのはLFP電池(リン酸鉄リチウムイオン電池)で、設備容量は7.5メガワット(MW)、蓄電容量は11メガワット時(MWh)に達する。瞬時に蓄電・放電を切り替えられる特性を活かし、送電網の需給バランスをリアルタイムで調整する。

これまで需給調整は主に火力発電が担ってきたが、脱炭素化の流れを受け、再生可能エネルギーと蓄電池の組み合わせが新たな選択肢として注目されている。RWEは今後、蓄電池の導入を欧州を中心に広げ、再エネの安定供給体制を強化していく方針だ。

(windkraft-journal 6月16日付)

<https://www.windkraft-journal.de/2025/06/16/batteriespeicher-von-rwe-mit-momentanreserve-funktion-hat-in-den-niederlanden-den-kommerziellen-betrieb-aufgenommen/213116>

ブルガリアのドロナミクス、EU 戦略技術枠組みから最大 3,000 万ユーロ支援獲得

ブルガリアの貨物輸送ドローン企業ドロナミクス(Dronamics)は12日、欧州イノベーション会議(EIC)の戦略技術支援枠組み「STEP (Strategic Technologies for Europe Platform)」から支援対象に選ばれたと発表した。EUにとって社会的・経済的に重要な技術と評価され、上限となる最大3,000万ユーロの支援を受ける見通し。

ドロナミクスは欧州で唯一、貨物用大型ドローンの開発から製造、運用までを手がける企業。主力機「ブラックスワン」は最大積載350キロ、航続距離2,500キロメートルで、航空貨物便と比べて最大60%のCO2削減と約半分の輸送コストを実現するという。2022年5月には、EU域内企業として初めて中距離貨物輸送向け軽量無人航空機(UAS)の運行許可(LUC)を取得した。

同社はすでに2022年11月、EICのアクセラレーター・プログラムから250万ユーロの助成も受けている。今回のSTEP支援は、ドロナミクスの技術がEUの戦略的自立性を高めると期待された結果といえる。

STEPは、デジタル・ディープテック、クリーン・資源効率技術、バイオ技術の3分野を対象とし、EU域外依存の低減と欧州の競争力確保を目的に戦略的技術企業への資金投入を進めている。

(プレスリリース 6月12日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/kooperation-verbessert-automatisierte-stackfertigung/>

フォードが独で BEV 電池の量産開始

米自動車大手フォードは12日、独ケルンで車載電池の量産を開始したと発表した。隣接する完成車工場に供給し、電気自動車(BEV)「エクスプローラー」「カプリ」に搭載する。

ケルン工場は2024年にBEV専門工場に改められた。同年末までは電池の供給を提携先の独フォルクスワーゲン(VW)から受けていたが、今年初に電池工場の稼働を開始して内製に転換。このほど量産段階に入った。

電池工場にはロボット180台を投入した。全長2キロの生産ラインでは約2,775個の部品が組み立てられる。

(プレスリリース 6月12日付)

<https://www.automaxx-ford.ch/neuigkeiten/details/5452/ford-startet-batterie-produktion-fur-explorer-und-capri-in-koln>

ボッシュ、AIに25億ユーロ超投資 自動運転や工場革新を加速

自動車部品大手ボッシュは25日、自社技術展示会で2027年末までに人工知能(AI)分野に総額25億ユーロ超を投資すると発表した。製品・サービス開発や生産現場へのAI導入を通じて、イノベーションの加速を狙う。シュテファン・ハルトウング社長は「AIによって新たな技術の章が始まった」と強調した。

AI活用の具体例として、同社は運転支援や自動運転を挙げた。車両周辺の状況把握や走行ルート計画などにAIを応用し、ソフトウェアやセンサー、高性能コンピューター、通信部品の売上を2030年代半ばまでに現在の2倍となる100億ユーロ超に拡大する計画。車載センサーから収集されるデータは生成AIの学習にも利用し、モデルのトレーニングを効率化する。

生産領域では、意思決定と行動が可能なエージェント型AIを導入済み。複数のAIを連携させて予知保全や人員配置の最適化に役立てるマルチエージェント・システムも展開しており、工場の稼働効率を高めている。

さらに、自社開発のエージェント型AIを外部企業が活用できるプラットフォームも構築し、今秋の提供開始を予定する。プログラミングの知識がなくても独自のシステムを構築できる点が特長だ。

ボッシュはAIを最重要技術と位置づけており、過去5年間で1,500件超の特許を出願。AIに関わる従業員は約5,000人、AI研修を受けた社員は累計6万5,000人に上る。

(handelsblatt. 6月25日付)

<https://www.handelsblatt.com/unternehmen/industrie/autoindustrie-bosch-steckt-25-milliarden-in-ki-basierten-strukturwandel/100137214.html>

コンチネンタルのオートモーティブ部門 半導体開発事業ユニットを新設

自動車部品大手の独コンチネンタルは23日、分社化予定のオートモーティブ部門が半導体開発の事業ユニット「アドバンスド・エレクトロニクス・アンド・セミコンダクター・ソリューションズ(AESS)」を新設したと発表した。ソフトウェア定義車(SDV)の増加に伴い重要性を増す車載半導体の分野で外部依存を低減する狙い。製造は戦略パートナーとなった米受託生産大手のグローバル・ファウンドリーズ(GF)に委託する。

自社開発により、品質向上や製品投入までの期間短縮、効率アップ、コスト削減を見込む。

GFは米国、欧州、アジアに工場を持つ。このため、コンチネンタルはサプライチェーンのレジリエンスを強化できる。

(プレスリリース 6月23日付)

<https://www.continental.com/de/presse/pressemitteilungen/20250623-aess/>

独コルバー、金属 3D プリントの粉末再利用を自動化 処理時間を 3 分の 1 に短縮

独ハンブルクの技術企業コルバー (Körber) は、金属 3D プリント工程における未焼結粉末のふるい分けと再利用を自動化し、作業効率と安全性を大幅に向上させた。英ラッセル (Russell) 製のふるい装置「AMPro Sieve Station」の導入により、粉末処理時間を従来の最大 6 時間から 3 分の 1 に短縮した。

コルバーは、SLM 方式の金属 3D プリンタ「SLM 280」を用いて、タバコ製造装置部品や社内研究開発用のステンレス部品を造形している。従来は造形後に残る最大 240kg (30kg 容器×8 本) の粉末を作業員が手作業でふるい、再利用していたが、作業負荷が大きく、安全リスクや粉末汚染の懸念もあった。

導入された自動ふるい機は、回収粉末と新粉末を密閉環境でふるい分け、所定の粒度に調整して直接プリンタに供給する仕組み。これにより粉末品質の一貫性と再現性が高まり、作業環境の安全性も向上した。

コルバーはこのシステムを、アディティブ・マニュファクチャリング (AM) 工程の標準化に向けた重要な第一歩と位置づけ、今後は他の用途や分野への展開も視野に入れている。金属粉末の再利用は、持続可能な製造体制を構築するうえで鍵を握る技術として注目が高まっている。

(3druck.com 6月20日付)

<https://3druck.com/industrie/koerber-reduziert-aufwand-beim-metallpulverhandling-im-3d-druck-mit-automatisierter-siebstation-55147909/>

ダイムラー・トラックとボルボ、トラック向けソフト定義車 OS で合併設立

商用車大手の独ダイムラー・トラックは 17 日、スウェーデンのボルボ・グループとともに、ソフトウェア定義車 (SDV) 向けの共通プラットフォームと専用オペレーティングシステム (OS) を大型トラック向けに共同開発する合弁会社を設立したと発表した。2030 年までの商用化を見据え、業界標準となる「トラック OS」の構築を目指す。

新会社「コレトゥラ (Coretura)」は、スウェーデン南部イエーテボリに設立され、出資比率は両社折半。初期の従業員数は約 50 人となる。主に集中型制御装置の仕様設計と調達を担当し、将来的には大量のデータ処理や車両機能の柔軟なアップデートを可能にする SDV 基盤の中核を担う。

SDV は、ソフトウェアにより車両機能を定義する設計思想で、従来のようにハードとソフトを一体開発する必要がなくなる。OTA (オーバー・ジ・エア) による機能追加・更新が容易になることで、車両の柔軟性とライフサイクル全体の競争力向上が期待される。トラック分野でも乗用車同様の進化が始まろうとしている。

(プレスリリース 6月17日付)

<https://www.daimlertruck.com/newsroom/pressemitteilung/daimler-truck-und-volvo-group-starten-coretura-ein-joint-venture-zur-gestaltung-der-digitalen-zukunft-von-nutzfahrzeugen-53102649>

独テレコムとエヌビディア、世界初の産業用 AI クラウドを独に構築

独電気通信大手ドイツテレコムは 13 日、米半導体大手エヌビディアと共同で、欧州メーカー向けの産業用人工知能 (AI) クラウドをドイツ国内に構築すると発表した。産業分野に特化した AI クラウドとしては世界初の試みで、2026 年までに操業を開始する計画だ。

このプロジェクトでは、エヌビディアの最新GPU（グラフィックス・プロセッシング・ユニット）を1万個以上搭載したAI専用データセンターを新設。ドイツテレコムがその運営、販売、セキュリティ、AIソリューションの提供を担い、データはすべてEU法に準拠して処理される。

独メルツ首相は、同日エヌビディアのジェンسن・フアンCEOと会談し、「この協業はドイツのデジタル主権と経済の将来にとって重要な一歩」と強調。フアン氏は「AIの時代には、ものを作る工場と知能を生み出す工場の両方が必要になる」と語り、同クラウドを通じて欧州メーカーがAI駆動の製造プロセスに移行できるようになると説明した。

産業用AIの普及と自律的な生産体制の確立が進む中、欧州の製造業が米中との競争にどう対抗するかが問われる局面で、今回の取り組みはその突破口として注目されている。

（プレスリリース 6月13日付）

<https://www.telekom.com/de/medien/medieninformationen/detail/ki-turbo-nvidia-und-deutsche-telekom-1093524>

ユニパー、スコットランドで初の風力発電事業に着手 2030年までに再エネ 10GW 目指す

独エネルギー大手ユニパー（Uniper）は10日、英スコットランド南西部イースト・エアシャーに風力発電パークを建設すると発表した。これは、同社が掲げる再生可能エネルギー事業強化の一環で、ユニパーにとって初の風力発電プロジェクトとなる。

事業には、独再生エネルギープロジェクト会社エネルギーコントーア（EnergieKontor AG）の英子会社が協力し、7基の風力タービンによる計46.2メガワット（MW）の発電能力を持つ施設を設置する。着工は2027年、運転開始は2028年を予定している。

ユニパーは現在、欧州各地で230MW規模の太陽光発電プロジェクトを進めており、再生可能エネルギーの建設準備完了（RTB）段階の開発容量を2030年までに最大10ギガワット（GW）へ引き上げる目標を掲げている。風力と太陽光を両軸としたポートフォリオ拡充により、脱炭素化への貢献を強める構えだ。

（windkraft-journal. 6月12日付）

<https://www.windkraft-journal.de/2025/06/11/uniper-erwirbt-schottisches-windparkprojekt-vom-deutschen-projektentwickler-energiekontor-ag/212938>

ポーランド初の洋上風力基地が稼働 オルレンがシフィノウイシチェに設置

ポーランドの石油・エネルギー大手オルレンは10日、洋上風力子会社オルレン・ネプチューンが国内初の洋上風力発電設営基地（ターミナル）をバルト海沿岸のシフィノウイシチェに開設したと発表した。この施設は、同社が進める洋上風力発電プロジェクトの中核拠点となる見込みで、今後は年間数十基規模の風力タービンの設置を支援する体制を整える。ターミナルでのタービン部品保管については、洋上風力開発大手オーシャン・ウインズと長期契約を結んだ。

新設されたターミナルは、風力タービン設置に使用されるSEP（自己昇降式設置船）や重量物運搬船など、大型船舶に対応可能な設計となっている。風力発電の要となる部品や構造物の積み下ろしを効率的に行う設備を備え、最大で2万4,000トンに及ぶ洋上変電所の構造物も受け入れ可能だ。

オルレンは現在、カナダの洋上風力大手ノースランドと共同で、発電容量1.2ギガワット(GW)の洋上風力プロジェクト「バルチックパワー」を推進している。バルト海全体の洋上風力発電の潜在容量は90GW超と見積もられており、同地域での開発加速が期待される。

(/strategicenergy.eu 6月11日付)

<https://strategicenergy.eu/orlen-polands-first-offshore-wind-farm/>

アンドリッツ、独エアフルトに水素電解槽部品のギガファクトリー開設

オーストリアのテクノロジー企業グループ、アンドリッツ(Andritz)は、グリーン水素製造向け電解槽部品の生産するギガファクトリーを、ドイツ・チューリンゲン州のエアフルトに正式開設した。すでに2025年3月から生産を開始しており、年産1ギガワット(GW)相当の電解スタックや相分離器などを手がける。これは160~200台分の電解槽に相当し、今後の需要に応じて拡張が可能とされる。

製造製品はすべてCE認証を取得済みで、圧力試験や品質検査を経たうえで出荷される。初期の納入先には、鉄鋼大手ザルツギッター(Salzgitter)が推進する水素還元製鉄プロジェクト向けに、1,100メガワット(MW)規模の設備供給が予定されている。工場では、ノルウェーのハイドロジェンプロ(HydrogenPro)の高圧アルカリ電解技術をアンドリッツが独占的にライセンス生産し、製品化している。

立地面では、欧州の中央に位置するエアフルトの地の利を活かし、高速道路や鉄道網を通じた欧州各地への迅速な納品が可能。工場は傘下のシュラー・プレッセン(Schuler Pressen)が長年拠点を構える敷地内に設置され、既存インフラを活用して建設された。現在、敷地内で約350人が勤務しており、新工場には将来的に約100人の配属が見込まれている。

(H2 News 6月5日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/gigafactory-fuer-elektrolyseure-eroeffnet-in-erfurt/>

RWE と AWS、エネルギー AI で戦略協業 1.1GW の再エネ PPA 活用も

ドイツのエネルギー大手RWEは12日、米アマゾンのクラウド子会社アマゾン・ウェブ・サービス(AWS)と戦略的協業の枠組みに合意したと発表した。これまでの関係を拡大し、AWSによるデジタルトランスフォーメーション(DX)支援を受ける。特にエネルギーAI、設備運用の最適化、流通分野での技術革新を共同で進める。

両社はすでに米国で再生可能エネルギーの電力購入契約(PPA)を7件締結しており、RWEは計1.1ギガワット(GW)分の再エネ電力をAWSに供給している。また、RWEのコモディティトレーディング子会社であるRWEサプライ・アンド・トレーディングは、主要なエネルギー取引・リスク管理アプリケーションをAWSクラウド上に移行し、これにより業務効率と処理能力が向上したという。

今回の合意により、AWSは今後、RWEのAI研究施設(米シアトル)との連携を深め、予測モデルの開発も支援する。エネルギー分野におけるAI活用を加速し、再エネ・市場取引・運用の各分野でのイノベーション創出を狙う。

(プレスリリース 6月12日付)

<https://www.rwe.com/presse/rwe-ag/2025-06-12-rwe-und-aws-vereinbaren-strategische-zusammenarbeit/>

独 LRZ の次世代スパコン「ブルー・ライオン」、Nvidia の新型 AI チップを搭載へ

ドイツ・バイエルン州科学人文アカデミー傘下のライプニッツ・スーパーコンピューティング・センター (LRZ) が導入を予定しているスーパーコンピューター「ブルー・ライオン」に、米エヌビディア (Nvidia) の次世代AI向けスーパーチップ「ヴェラ・ルービン」が搭載されることが10日、同社などの発表で明らかになった。

ブルー・ライオンは米ヒューレット・パカード・エンタープライズ (HPE) がLRZの委託で開発を担い、現行機の約30倍の演算能力を実現する見込み。稼働開始は2027年初頭を予定している。Nvidia製チップの採用は以前から決定していたが、具体的なチップ名は今回初めて公表された。

「ヴェラ・ルービン」は、次世代GPU「ルービン」と、GPUと同期動作する初のカスタムCPU「ヴェラ」で構成されるスーパーチップ。データ処理や科学シミュレーションを高速化する設計で、2026年後半にリリースの予定。米ローレンス・バークレー国立研究所の次期スパコン「ダウドナ」にも採用が決定している。

LRZは新チップによって、AI研究や大規模シミュレーション、気候解析などの計算需要に応える欧州屈指の計算拠点としての地位をさらに強化する構えだ。

(プレスリリース 6月11日付)

<https://www.lrz.de/news/detail/blue-lion-mit-vera-rubin-architektur>

シーメンスとエヌビディア、産業 AI で協業拡大 次世代スマートファクトリー実現へ

ドイツの電機大手シーメンスは11日、米半導体大手エヌビディア (Nvidia) との協業を拡大すると発表した。両社の技術を融合し、産業AIを基盤とした次世代型スマートファクトリーの実現を顧客企業に支援する。Nvidiaのジェンソン・フアン最高経営責任者 (CEO) は「産業AIの次の波の可能性を切り開く」と意義を強調した。

今回の協業では、シーメンスのデジタルビジネスプラットフォーム「シーメンス・エクセラレーター」の製品群と、NvidiaのAI技術およびアクセラレーテッド・コンピューティング技術を組み合わせる。これにより、顧客メーカーは製品開発から量産までの全工程において、リアルタイムでデータ駆動型の意思決定を行い、業務効率や部門間の協業を向上させることができる。

シーメンスとエヌビディアは2022年にパートナーシップを締結し、当初はデジタルツインなどを中心に協業を展開。その後、生成AIやロボット技術など、産業AI分野全般へと協力の幅を広げてきた。今回の拡大はその成果の一環で、製造業の変革を加速させる試金石と位置づけられる。

(プレスリリース 6月11日付)

<https://nvidianews.nvidia.com/news/siemens-and-nvidia-expand-partnership-to-accelerate-ai-capabilities-in-manufacturing>

シーメンスとヒラノテクシード、電池製造機械のデジタル化で協業

ドイツの電機大手シーメンスは2日、日本のヒラノテクシード (奈良) と協業し、電池製造機械の最適化とデジタル化を支援すると発表した。電池性能や安全性に直結する電極塗工工程の精度向上を狙う。

ヒラノテクシードは、金属箔に活性材を塗布する電極塗工ラインの製造を手がけており、この工程における欠陥が電池の品質に大きく影響することから、シーメンスの技術を導入して改善に取り組む。

協業では、シーメンスのデジタルビジネスプラットフォーム「シーメンス・エクセラレーター」内のオートメーション技術やシミュレーションソフトウェアを活用し、電池製造装置用のデジタルツインを開発。物理的な生産に入る前にバーチャル環境で機械の設定や動作をシミュレーションすることで、製品欠陥の予測が可能になる。従来は経験に基づいて機械パラメーターを設定していたため、設定ミスによる不良品発生リスクが課題だった。

開発されるデジタルツインと機械シミュレーションの約80%は、事前定義された標準ファンクションブロックにより構築可能で、実装や試運転にかかる時間の短縮、開発コストの削減も見込まれている。

(プレスリリース 6月2日付)

<https://press.siemens.com/global/de/pressemitteilung/siemens-als-technologiepartner-hirano-steigert-qualitaet-und-performance-der>

SAP など独企業 5 社、AI ギガファクトリー構想で協議 EU の支援活用狙う

ドイツのソフトウェア大手SAPなど主要企業5社が、AI（人工知能）ギガファクトリーの設置に向けた協議を進めていることが、経済紙『ハンデルスブラット』の報道で明らかになった。欧州連合(EU)が掲げるAI振興策「AI大陸行動計画」に基づき、共同で次世代AIインフラの構築を目指す。

参加企業はSAPに加え、電機大手シーメンス、通信大手ドイツテレコム、インターネットサービス企業イーオノス(IONOS)、そしてAI活用に積極的な小売大手シュヴァルツ・グループの5社。EUは現在のAIデータセンターの約4倍に相当する約10万個のAIチップを備えた大規模施設を域内に最大5カ所設置する計画で、これに対する支援を表明している。

SAPのトーマス・ザウアーエッシヒ取締役は、「パートナーシップでしか実現できない。それは明らかだ」とし、現在はどうような事業モデルが最適かを検討中という。設置場所や構成などの詳細は未定ながら、欧州におけるAIインフラの主導権確保に向けた動きとして注目される。

(handelsblatt. 5月29日付)

<https://www.handelsblatt.com/technik/it-internet/kuenstliche-intelligenz-sap-und-telekom-wollen-neues-ki-rechenzentrum-bauen/100131063.html>

インフィニオン、宇宙向け GaN トランジスターを市場投入へ。米軍 DLA の JANS 認証を取得

ドイツの半導体大手インフィニオン・テクノロジーズは5月29日、放射線耐性を持つGaN（窒化ガリウム）トランジスターの新製品ファミリーを市場投入すると発表した。宇宙分野での使用を想定した製品で、米国防総省の国防兵站局(DLA)から「JANS MIL-PRF-19500/794」認証を取得している。

この認証は宇宙・防衛用途の高信頼性部品に与えられるもので、インフィニオンは100%内製によるGaNパワーデバイスでこの認証を受けた初のドイツ企業となる。製品は高放射線環境でも安定した動作を実現する設計で、人工衛星や宇宙探査機向けの電源・通信機器などでの採用が見込まれている。

同社は今回、性能評価用のエンジニアリング・サンプルと評価ボードの提供を即日開始し、最終製品の発売は今夏を予定する。欧州の半導体メーカーとして、米国の防衛関連市場における存在感を一層高める構えだ。

(プレスリリース 5月29日付)

<https://www.infineon.com/cms/de/about-infineon/press/market-news/2025/INFPSS202505-111.html>

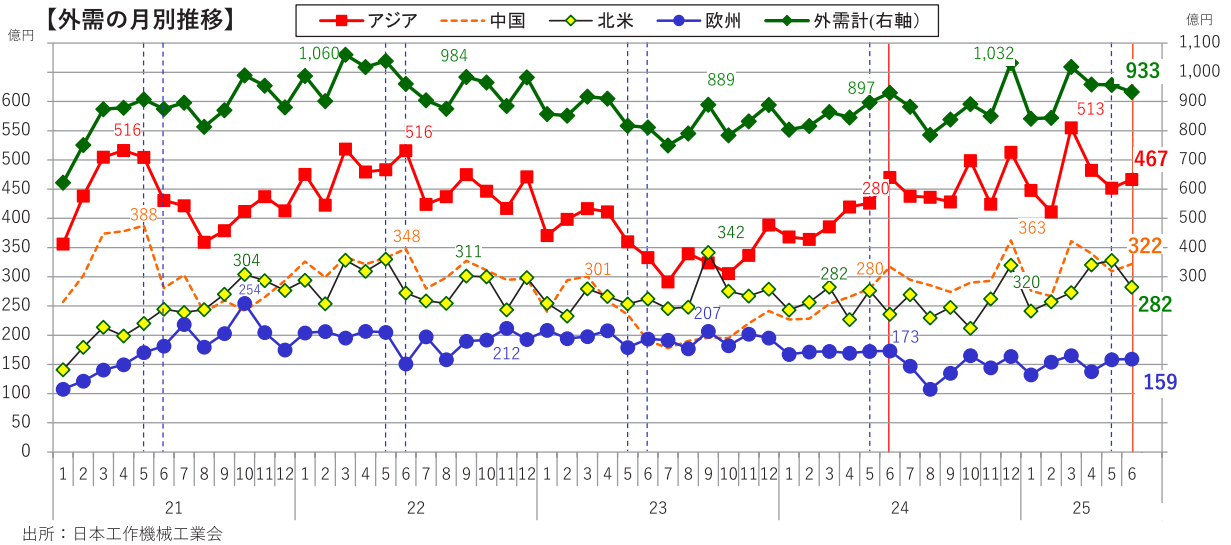
6. 日工会外需状況（5月）

外需【6月分】

932.9億円（前月比 △2.5% 前年同月比 +0.3%）

外需総額

- ・ 前月比は3カ月連続減少も、前年同月比では9カ月連続増加し、10カ月連続の800億円超え。
- ・ 世界経済の不透明感と重なり、外需の伸び率は低調に推移。



外需【6月分】

主要3極別受注

① アジア

アジア計は、3カ月連続の500億円割れ。前年同月比で15カ月ぶりの減少も、450億円超と堅調を維持

- 東アジアは、3カ月連続の400億円割れ。
- 中国は3カ月ぶりに前月比で増加、300億円超えのレベルを維持。
- その他アジアは2カ月連続の100億円超え。
- インドは3カ月ぶりの50億円超えに回復。

② 欧州

欧州計は、2カ月連続の150億円超え。

- ドイツは、前月比、前年同月比減少も2カ月連続の35億円超え。
- イタリアは、前月比、前年同月比ともに減少も、4カ月連続20億円超え。

③ 北米

北米計は、前月比で減少も、5カ月連続の250億円超え。

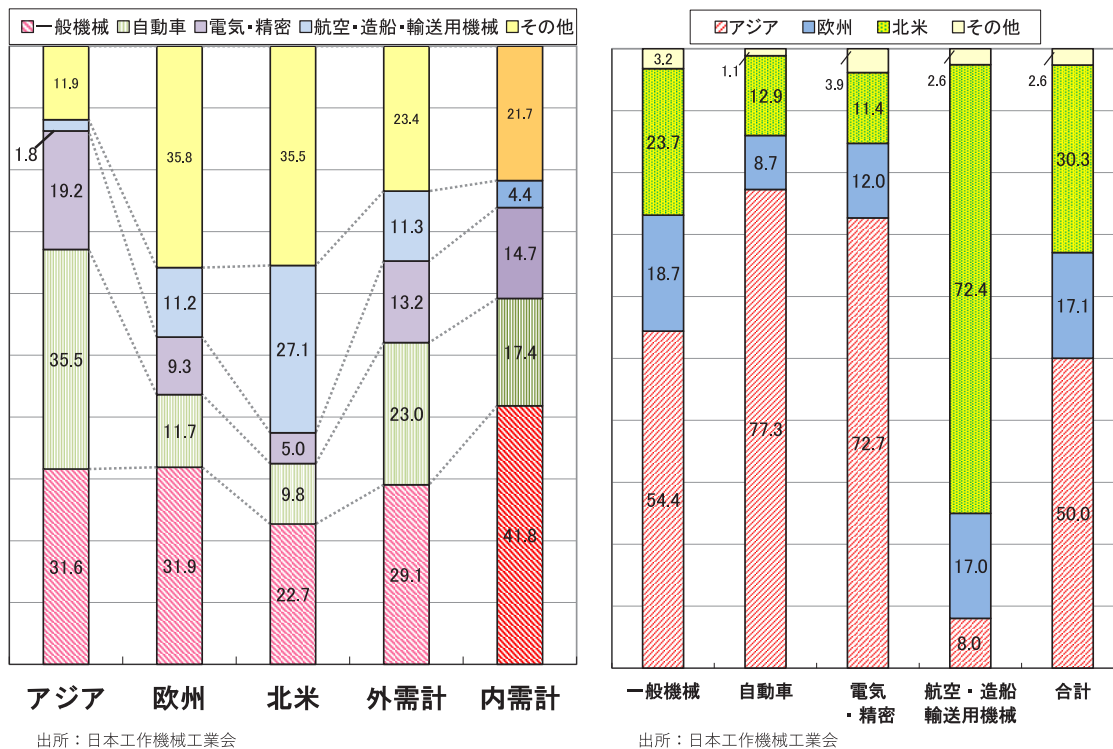
- アメリカは、3カ月ぶりの250億円割れ。
- メキシコは前月比で減少も、前年同月比169.9%増加で、20億円超え。

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	466.8	+3.3 3カ月ぶり増加	△0.7 15カ月ぶり減少
東アジア	353.9	+1.2 3カ月ぶり増加	△4.2 15カ月ぶり減少
韓国	19.4	△19.0 2カ月連続減少	△18.3 2カ月連続減少
中国	321.8	+4.0 3カ月ぶり増加	+1.5 15カ月連続増加
その他アジア	112.9	+10.7 2カ月連続増加	+12.2 2カ月連続増加
インド	51.4	+13.6 3カ月ぶり増加	+10.5 2カ月連続増加
欧州	159.2	+0.5 2カ月連続増加	△8.0 18カ月連続減少
ドイツ	35.5	△2.1 2カ月ぶり減少	△20.5 2カ月ぶり減少
イタリア	20.3	△37.8 2カ月ぶり減少	△4.7 2カ月ぶり減少
北米	282.4	△13.9 5カ月ぶり減少	+19.7 3カ月連続増加
アメリカ	249.3	△14.0 5カ月ぶり減少	+16.5 5カ月連続増加
メキシコ	23.6	△7.0 2カ月連続減少	+169.9 3カ月連続増加

出所：日本工作機械工業会

外需【6月分】

主要3極別・業種別受注構成



外需 地域別構成の推移

5月は、3カ月連続北米比率が30%を上回った。

